

黙示録 12 章 13 節－18 節 スタディーガイド

★ 黙示録 12 章 13 節－14 節

自分が地上に投げ落とされたのを知った竜は、男の子を産んだ女を追いかけた。しかし、女は大鷲の翼を二つ与えられた。自分の場所である荒野に飛んで行って、そこで一時と二時と半時の間、蛇の前をのがれて養われるためであった。

13 節「自分が地上に投げ落とされたのを知った竜は、男の子を産んだ女を追いかけた。」

これは大患難時代の間で起こることです。この時にはすでに第三神殿が建っていると考えられます。ダニエル書 9 章 27 節で、「彼は一週の間、多くの者と堅い契約を結び、半週の間、いけにえとささげ物とをやめさせる。荒らす忌むべき者が翼に現れる」と預言されているからです。

反キリストが、イスラエルの政治家やイスラム教徒たちと契約を結び、神殿の丘の一部にユダヤ人の場所を与えることが考えられます。

しかし 7 年の中間、半週のところ「荒らす忌むべき者が翼に現れる」という出来事が起こります。これは、自分が生ける神だということです。

★ テサロニケ人への手紙第二 2 章 3 節－4 節

だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、まず背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現れなければ、主の日は来ないからです。彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、その上に自分を高く上げ、神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言します。

3 節「不法の人、すなわち滅びの子が現れなければ、主の日は来ないからです。」

反キリストが現れなければ、キリストの再臨は起こらないという意味です。

4 節「彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、その上に自分を高く上げ、神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言します。」

自分を神とし、聖なる神殿を取り上げ、ユダヤ人が捧げているいけにえと捧げ物をやめさせ、宗教の自由を取り除き、自分だけを拝むように強制します。

この時、イエス様を信じる者とユダヤ人は服従しません。反キリストはイスラエルを抹殺しようと追い掛けます。

★ ゼカリヤ書 13 章 8 節－9 節

全地はこうなる。——主の御告げ——その三分の二は断たれ、死に絶え、三分の一がそこに残る。わたしは、その三分の一を火の中に入れ、銀を練るように彼らを練り、金をためすように彼らをためす。彼らはわたしの名を呼び、わたしは彼らに答える。わたしは「これはわたしの民」と言い、彼らは「主は私の神」と言う。

8 節「三分の二は断たれ、死に絶え、三分の一がそこに残る。」

イスラエルの 3 分の 2 が死に絶えるという、苦難の時を迎えます。

9 節「銀を練るように彼らを練り、金をためすように彼らをためす。」

生き残った 3 分の 1 が大患難を通ります。

9 節「わたしは『これはわたしの民』と言い、彼らは『主は私の神』と言う。」

大患難を通った後、イエス様が「イスラエルはわたしの民」と言い、イスラエルの民が「イエスは私の神」と言っているのです。

黙示録 12:14 「しかし、女は大鷲の翼を二つ与えられた。自分の場所である荒野に飛んで行って、そこで一時と二時と半時の間、蛇の前をのがれて養われるためであった。」

神学者の中には、終わりの時に鷲の印を持つアメリカが飛行機を送って、イスラエルの残りの者を救い出すと理解している人々がいます。しかしエジプトの時も同じでした。

★ 出エジプト記 19 章 4 節

あなたがたは、わたしがエジプトにしたこと、また、あなたがたを鷲の翼に載せ、わたしのもとに連れて来たことを見た。

これは、あらゆる奇跡を通して出エジプトさせ、紅海の水を割って乾いた所を通らせた神様のなされた数々の御業を表しています。

反キリストから逃れる時も同じように、主の御業によって逃げ延びることができるのです。

黙示録 12:14 で、すでに備えられている「自分の場所である荒野」に逃げ、一時と二時と半時である 3 年半の間、逃れることが預言されているのです。

★ ミカ書 2 章 12 節

ヤコブよ。わたしはあなたをことごとく必ず集める。わたしはイスラエルの残りの者を必ず集める。わたしは彼らを、おりの中の羊のように、牧場の中の群れのように一つに集める。

ヤコブよ。わたしはあなたをことごとく集める。わたしはイスラエルの残りの者を必ず集める

反キリストに追い掛けられて、多くのイスラエルの民が殺されますが、残った者が一箇所に集められます。

場所は「おりの中の羊のように」と記されていますが、「おりの中」は地名です。

「おりの中」というのは、ヘブライ語で「ボツラ」、ギリシャ語では「ペトラ」と呼ばれ、ヨルダン国にある世界遺産になっている所です。

新改訳聖書も口語訳聖書も「おりの中」と訳していますが、文語訳ではボツラと記されています。この場所は1200m続く細い道で、両側は約100mの絶壁です。ここから上を見上げると、少しだけ空が細く見えます。

これは羊のおりに似ています。羊のおりは、入り口が一匹ずつしか通れないように細くなっています。細い所を出ると、広々としたおりに到着します。羊を数えるのに一番良い方法だからです。

ボツラは多くの岩がある広大な荒野ですが、入り口は一つだけです。その入り口を神様が閉めてしまえば、誰も入れません。

★ 黙示録 12章 15節－16節

ところが、蛇はその口から水を川のように女のうしろへ吐き出し、彼女を大水で押し流そうとした。しかし、地は女を助け、その口を開いて、竜が口から吐き出した川を飲み干した。

ところが、蛇はその口から水を川のように女のうしろへ吐き出し、彼女を大水で押し流そうとした

聖書の中で「大水で押し流す」という記述は、大軍を送って殺そうとしている様子のことです。

ダニエル書 9章 26節では「その終わりには洪水が起こり、その終わりまで戦いが続いて、荒廃が定められている。」また、ダニエル書 11章 22節には「洪水のような軍勢」ということばが使われています。

サタンは反キリストの軍隊を使って、イスラエルを追い掛けるものと考えられます。

16節「しかし、地は女を助け、その口を開いて、竜が口から吐き出した川を飲み干した。」

恐らく地震の時のような地割れによって、大軍が地に飲み込まれると考えられます。

★ 黙示録 12章 17節－18節

すると、竜は女に対して激しく怒り、女の子孫の残りの者、すなわち、神の戒めを守り、イエスのあかしを保っている者たちと戦おうとして出て行った。そして、彼は海べの砂の上に立った。

17 節「竜は女に対して激しく怒り、女の子孫の残りの者、すなわち、神の戒めを守り、イエスのあかしを保っている者たちと戦おうとして出て行った。」

女の子孫の残りの者とは、イスラエルの中に残っている者です。

17 節「イエスのあかしを保っている者たち」

現在、メシニック・ジューと呼ばれている、メシア・イエスを信じるユダヤ人のことであると思います。この人々がイスラエルに残っていると考えられます。

18 節「彼（竜であるサタン）は海べの砂の上に立った。」

この海辺は地中海に面している、イスラエルの海岸だと考えられます。

黙示録 12 章 14 節に書かれているように、ボツラの中に逃げ込んだイスラエルの民は、神様によって養われ、3 年半を過ごします。

まだ、イエス様を受け入れていませんが、二人の証人の伝道と、彼らの復活と召天を覚えている人々です。しかし自分たちで納得するまで学ばなければ、信じるに至りません。

現在、世界遺産のボツラであるペトラには、クリスチャンたちがアメリカやカナダから旅行に行き、ヘブライ語、ロシア語、スペイン語、そして英語などの聖書を、ボツラの中に隠しています。着の身着のまま逃げ込んだイスラエルの民が、3 年半を過ごす間、しっかりと学ぶことができるためです。

中には見つかって捨てられるものもありますが、神様は必要な分をその時まで保管してくださるに違いありません。

こうして、ボツラに逃げ込んだイスラエルの民が、民族的にイエス・キリストこそ彼らのメシアであり、創造主ご自身であるということを知るのです。そしてついに主の名を呼び、主がお答えになり、ご再臨なさるのです。

◆MEMO◆



OMEGA MINISTRIES
OMEGA BIBLE STUDY